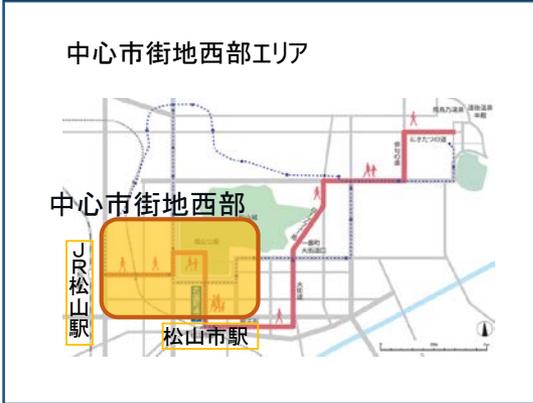


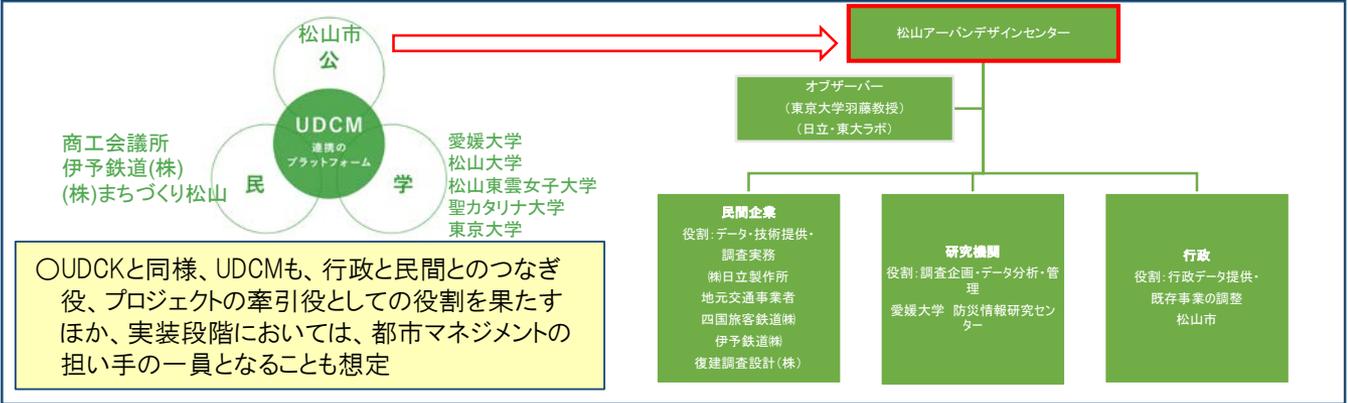
事例② 松山スマートシティコンソーシアム

- 中心市街地の空洞化等を背景に、回遊性が高く賑わいのある「歩いて暮らせるまちづくり」を進めることを目的に、市民の交通行動、活動実態などまちづくりに関する各種データの活用による、まちづくり分野のスマート化を推進。
- 市、民間事業者、大学による公・民・学連携組織の松山アーバンデザインセンター (UDCM)がプラットフォームとして、市と民間事業者とをつなぎ、市民を巻き込みプロジェクトを牽引するとともに、都市マネジメントの担い手の一員となることも想定。

◆対象区域



◆事業実施体制



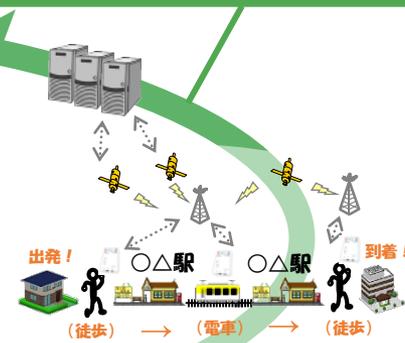
◆スマートシティの取組

○データに基づくエビデンス・ベースのまちづくりとして、『モニタリング→評価・課題の抽出→施策の検討・シミュレーション→施策の実施』のサイクルに即した都市マネジメントシステムの導入を検討



評価・課題の抽出

『データ駆動型都市プランニング』



スマートシティ実装化のポイント

- 国交省では、関係府省とともに、職員を全国のモデルプロジェクト地区に派遣し、コンソーシアムメンバーとの意見交換を実施中(これまで35地区を訪問)
- スマートシティ実装化において、体制面・資金において自律的な取組とすることが非常に重要
- 技術的な面におけるスマートシティの実装化を進めるポイントは、現時点で次の3点

①取組を牽引し、関係者間調整を担う組織・人材の充実

専門的なICT技術だけではなく、経営や行政などあらゆる専門分野間の調整をし、取組を牽引する組織・人材が必要
 【事例】UDCKやUDCMは、研究機関や民間企業との連携を通じて、プロジェクトを牽引

②官民各種のデータにおけるオープンなデータ領域の確保

様々な主体の積極的な参画を通じた持続的な取組とするため、オープンとするデータ領域を広く確保することが必要
 【事例】札幌では、一般社団法人札幌圏地域データ活用推進機構がクローズドとし付加価値を持つデータとは別に、オープン化し共通使用できるデータと領域を区別し、管理

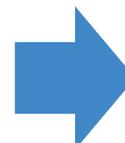
③コンソーシアム構成員におけるデータ・導入技術の共有化

効率的かつ連携した取組とするため、コンソーシアム構成員相互に保有するデータ、導入技術を共有することが必要
 【事例】大丸有エリアでは、業種を超えてコンソーシアム構成員が保有する電力使用量や人々の消費活動データ等を共有し、新たなサービスを創出する社会実験を民間イノベーションプラットフォームで検討

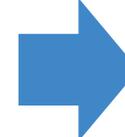


モデル事業の実施
 (官民連携プラットフォームによる支援)

ガイドラインの作成
 社交金等による支援



モデル事例の構築



全国への横展開

